

ささき創主通信

(議会報告 52 号) 平成 30 年 3 月

柳川市新外町 119-2

TEL:0944-74-1907 FAX:0944-75-6058

Email:soshu.s@nifty.com

<http://soshu.la.coocan.jp/>

今年は、平成の世となってから 30 年目、明治維新から数えると 150 年目にあたります。そして、来年の 4 月末日を以って今上陛下が譲位され、5 月 1 日に皇太子殿下が新たな天皇陛下に即位されます。平成の世が終わりを告げようとしており、時代の節目に差しかかっています。

いま日本は、超少子高齢化、人口減少、いかに社会の活力を維持していくのか、これまで誰も経験したことの無い時代を迎えようとしています。

私たちの身の回りに目を向けてみますと、IT 化の進歩は目覚ましいものがあり、家に居ながらにして買い物ができ、生鮮食料品までも家に届けてくれます。スマートフォンを持てば、道案内、買い物から、留守宅の監視までしてくれます。自動車は、人がハンドルを握ることなく自動運転ができるものが登場しようとしています。便利さの追求は留まるところを知りません。

そして、その自動車や機械を作っている工場では、人間の仕事をロボットが行うようになり、人の働く場所が少なくなってきました。

そういう状況にあっても、大都市圏では、様々な職場で人が足りないといえます。ところが、地方の企業からは人が集まらなさと悲痛な声が聞こえてきます。

地方自治体にしても、人と物が集まる大都市圏は税収が増え様々な投資が行われているのに対し、地方は人口減少、税収が減少していくなか、高齢化社会に対応する福祉予算は増え続け、子育て支援策を手厚くしていかななくてはなりません。そしてこれまで同様、市民サービスも維持していかななくてはなりません。

冒頭触れたように時代は節目にあります。時代のみならず私たちを取り巻く環境は大きく変わろうとしています。新たな課題が次々と現れてくる中で、いかに私たちの住む町の活力を維持していくのか大きな問題です。

将に時代は待たないです。柳川のことだけを見つめていては進んでいく道を誤ります。時代の変化、社会の大きな流れを見据えながら、柳川市の進む道を手探りしながら一步一方進んでいかななくてはならないと思います。

柳川市議会議員

佐々木創主

平成 30 年 3 月定例会 会期：2 月 26 日～3 月 19 日

平成 30 年第 1 回目の定例議会が開催され、37 の議案が審議されました。

○平成 30 年度予算

平成 30 年度の一般会計、5 つの特別会計（国民健康保険、住宅新築資金、公共用地先行取得、下水道事業、後期高齢者医療）および水道事業会計が決まりました。

○一般会計

一般会計は、公共施設・道路・水路などのインフラ整備、農漁業・商工業などの産業、教育、福祉など市民サービス全般にわたるものです。

平成 30 年度の予算額は、293 億 100 万円で、前年度の肉付け予算（6 月補正予算）後と比較して 7 億円程減少しています。これまで平成 17 年以降、ほぼ 280 億円から 290 億円程度で推移してきました。

収入、支出ともそれぞれの項目の割合に大きな変化はありませんが、下の表の網掛け部分の自主財源（柳川市独自の収入）は 3 割程度、支出の網掛け部分の義務的経費（必ず支出しなければならない性質のもの）は 5 割を超えています。

柳川市の一般会計を家計に見立てると

（家計の金額は 5000 分の 1）

柳川市一般会計 収入			家計収入	
項目	金額	構成比	項目	金額
市税	61 億 8971 万円	21.1%	給料	130 万円
その他収入	19 億 9323 万円	6.8%	パート収入	40 万円
繰入金	7 億 3615 万円	2.5%	貯金の取り崩し	15 万円
地方譲与税	2 億 9700 万円	1.0%	親からの仕送り	348 万円
地方交付税	84 億円	28.7%		
その他交付金	13 億 6300 万円	4.7%		
国庫支出金	46 億 4148 万円	15.8%		
県支出金	27 億 3313 万円	9.3%		
市債	29 億 4730 万円	10.1%	借金	59 万円
合計	293 億 100 万円		合計	586 万円

柳川市一般会計 支出			家計支出	
項目	金額	構成比	項目	金額
人件費	49 億 7130 万円	17.0%	食費	99 万円
扶助費	75 億 8966 万円	25.9%	医療費、老人ホーム費など	152 万円
公債費	30 億 3350 万円	10.4%	ローン返済	61 万円
物件費	34 億 1147 万円	11.6%	光熱水費	68 万円
維持補修費	1 億 6130 万円	0.6%	車の修繕など	3 万円
補助費	17 億 8012 万円	6.1%	親戚・友人への支援	36 万円
積立金	1 億 1709 万円	0.4%	貯金など	2 万円
投資・出資	1 億 951 万円	1.8%	投資など	10 万円
貸付金	4 億 147 万円			
繰出金	35 億 8746 万円	12.2%	子供への仕送り	71 万円
普通建設事業費	41 億 813 万円	14.0%	家の修繕、電化製品の買い替え	82 万円
予備費	3 千万円	0.1%		
合計	293 億 100 万円		合計	586 万円

平成 30 年度に行われる事業の一部を紹介します

学校校舎改修事業	豊原小学校（9,810 万円）、昭代第一小学校（6,710 万円）防水、外壁補修および洋式トイレの導入（洋式トイレは平成 31 年度までに全小学校に導入予定）
柳河団地建設事業	3 億 585 万円（28 戸）

市議会議員選挙費	9月30日に行われる選挙費用 5,225 万円。定数が 22 名から 21 名となります。
地域おこし協力隊員	市外から柳川に移住して様々な柳川の活性化に取り組んでもらう事業。 観光課、商工ブランド課、水産振興課に 15 名。報酬、住居費が支給。
三橋筑紫橋線道路建設	4,333 万円（柳川市役所西側龍眼科～筑紫橋）測量、家屋調査など。
国道 443 号バイパス 延伸事業	＊（県事業）有明海沿岸道路徳益インター北側から 18m道路までの区間の 道路新設計画。測量、設計、地元説明会が行われる予定です。

○変わる国民健康保険

これまで柳川市単独で運営されてきた国民健康保険が、4月1日から福岡県全体で運営されることになります。ただ、医療費の支給、保険税の徴収は、これまで同様柳川市が行います。

国保加入者への影響

国保加入者が収める保険税は、所得割、資産割、均等割、平等割の4つから成り立っています。このうち土地や建物を所有されている方々に固定資産税額の10%が資産割としてかかっていたのですが、平成30年度から廃止されることになります。

国保税の限度額の引き上げ

国保税のうち均等割と平等割は、すべての加入者が同じ額となっていますが、所得割は所得額に応じて税額が決まります。

これまで保険税の限度額は 89 万円でしたが、平成30年度から 93 万円に引き上げられます。

高齢化と医療技術の進歩により、医療費が増え続

け、国保財政が厳しくなっていることから、保険税率の引き上げが行われてきましたが、中・低所得者と高所得者で同じ料率での引き上げとなると中・低所得者の負担割合が高くなってしまうため、保険税率はそのまま限度額の引き上げとなりました。

○平成31年1月から、住民票などの証明書がコンビニで取得できるようになります

現在、住民票、印鑑証明、税証明といった証明書は、市の3庁舎の窓口および自動交付機でしか取得できませんが、平成31年1月から全国のコンビニエンスストアで取得できるようになります。

ただし、マイナンバーカードもしくは住民基本台帳カードが必要です。

交付手数料は現在と同額 200 円（住民票）の予定ですが、市は、コンビニエンスストアに1通150円の手数を支払うことになります。

○増え続ける子供たちと先生の負担

現在の柳川市の小学校は19校、中学校は6校の体制となっています。

少子化の影響で、小学校では全学年が1クラスの学校が少なくありません。

避けて通れない学校の統合

多くの友達との触れ合いのなかから、協調性や社会性を学ばなければなりません。そのためにも、学校の統廃合は避けて通れませんが、平成20年当時行われた地域代表との協議会で、一部地域から統廃合について猛烈な反対があったため、10年間は現在の体制となってしまっています。

増え続ける子供たちと先生の負担

そういう状況下のなか、学校では授業時間数が増え、英語、道徳が正式な教科となることから、子供たちのみならず先生たちの負担が増えています。

学習指導要領によると、英語は文法に加え外国人並みの発音と会話を重視したカリキュラムとなるようです。

全教科を教える先生たちに、外国人のような発音と英語力を求めるのは酷というものです。

現在、市の教育委員会では、外国人教師などの外部講師によるフォロー体制を強化することが検討されています。

多様化する課題

その他にも、多くの非常勤職員が雇われています。

それは、特別支援教育支援員という方々で、平成 30 年度は小中学校合わせて 44 名が雇用される予定です。

この支援員の方々は、落ち着きがなく授業に集中できない生徒のフォロー、食事やトイレの補助、授業中に教室を出ていく、多くの生徒たちが騒ぎ出すため授業が出来ないといった状況で担任の先生を補助するために配置されているようです。

現在の教育現場では、学力の向上はもとより、増える教科、多様な課題に対応していかななくてはなりません。より多くの人員と財源を必要としています。

少子化のなかで、子供たちは地域の宝、国の宝と言います。子供たちが健やかに成長するため、子供たちの教育を支援する地域の力も必要とされてきています。

○校区公民館職員の勤務体制が変わります

平成 17 年の合併以降、柳川地区と大和・三橋地区の校区公民館長、主事、主事補は、勤務体制と報酬に違いがありました。

柳川地区は、当初から校区公民館が整備されており、公民館長、主事・主事補は基本的に常駐で勤務する体制でしたが、大和・三橋地区は、校区公民館施設は無く、小学校に併設されたクラブハウスなどを活用し、必要に応じた勤務体制となっており、報酬も大きな開きがありました。

大和・三橋地区の全ての小学校区に校区コミュニティセンターが整備されたことにより、今回その勤務体制と報酬が統一されることになりました。

大和・三橋地区の館長・主事は、別に仕事をお持ちの方も少なくないことから、二つの勤務体制と報酬が設定されています。

現在			改正後		
柳川	館長	非常勤	館長	週 16 時間	
	主事	常勤		週 8 時間	
	主事補	常勤	主事	常勤	
大和 三橋	館長	在宅		週 8 時間	
	主事	在宅	主事補	常勤	
	主事補	常勤			

○議員提案で

「男女共同参画推進条例」の一部を改正

平成 11 年、国において「男女共同参画社会基本法」ができました。

その理念は、「男女が、社会の対等な構成員として、自らの意思によってあらゆる分野における活動に参画する機会が確保され、男女が均等に政治的、経済的、社会的及び文化的利益を享受することができ、共に責任を担うべき社会」というものです。

それを受けて、柳川市でも、平成 17 年に基本計画が策定され、昨年の 6 月「柳川市男女共同参画推進条例」が定められました。

その中身は、『これまでの「男は仕事、女は家庭」という慣習にとらわれず、男女とも同じ立場で仕事・家庭の役割を担う』ということや、行政と市民・事業者の責任などが盛り込まれました。

男女が持つそれぞれの特性

現在、女性に社会進出は、目覚ましいものがあり、家庭での男女の家事分担も進んでいます。今後、さらに女性の活躍の場が広がることを期待するものです。

ただ、男は女に比較して力が強い、女はきめ細やかで配慮がとどく、子供に対する父性・母性というものがあり、男言葉・女言葉と、男女にはそれぞれ様々な特徴、特性があります。

また、男女の職種の好みも違い、男女それぞれに偏ってしまう職業もありますし、専業主婦を生きがいとする女性も少なくありません。

そこで、私を含め 7 名の議員で、「男女の特性を認め生かす」という文言などを盛り込んだ条例の一部改正案を提案し、賛成多数で可決しました。

チェック機関に留まらない議員の役目

議員提案で条例案を出すということは、私の知る限りでは初めての事です。

執行部から提案されることを、賛成・反対とチェックするだけの地方議会、議員ではこれからの時代の要請に答えられません。

これからも、政治家の本分である政策立案能力を高め、他の議員と切磋琢磨しながら取り組んでいきたいと思っています。

○一般質問（市政を質す）

景観条例、名勝「水郷柳河」、文化的景観 （大河ドラマにふさわしい景観づくり）

詩聖北原白秋を育んだ「掘割景観」は、私たちの誇りであり、柳川観光の目玉となっています。

柳川市では、平成 24 年、「柳川市景観条例」が制定され、15m 以上の建物の建設や建物の色、掘割沿いの樹木の伐採や建物の取り壊しなどを規制することで、掘割の景観を守っていくことになりました。

そして、平成 27 年、三柱神社から沖端までの城堀と三柱神社、白秋生家などが「水郷柳河」として名勝の指定を受けました。

失われていく掘割景観

しかし、掘割景観の一部となっている大木や古い屋敷の管理は、持ち主にとって大きな負担でもあり、伐採や取り壊しが続いています。

そこで、毎年 1 億円ほど集まる「ふるさと寄付金」をその個人の維持管理に活用できるよう要請し、市当局も同調してくれました。

ただ、市は市民の景観に対する認識が進んでいないことが大きな原因として、市報への掲載などの啓発活動を行っていますが、なかなか効果が上がらない状況です。

無くなった桜並木

そういうなか、春の彩りとなっていた外堀の水辺の散歩道の「伝習館高校の桜の並木」が切られてしまいました。

伝習館高校は、現在校舎の建て替え中で、工事に差し支えるということで切ってしまったそうです。

しかし、福岡県とは言え、景観条例を無視していいわけがありません。

私の指摘を受け、市が県に確認した所、「外堀は景観条例の範囲とは知らなかった」ということです。

個人で建物を建てる場合でも、設計業者、建築業者が建築基準法、都市計画法を始め様々な法令を確認しながら行います。それを公共団体である、それも市の上部団体である県が知らなかったとはお粗末な話です。

そこで市長に、「もう一度桜を植えなおすことを県に求めるよう」要請しましたが、「行き違いの原因などを調査したい」の答弁にとどまりました。

大河ドラマ「立花宗茂と閨千代」

現在、柳川市は大河ドラマ「立花宗茂と閨千代」を実現させようと市内の団体を始め、福岡県や宗茂公ゆかりの自治体と連携し、運動を進めています。

テレビやインターネットで、大河ドラマにしたい人物のトップ 3 になっている立花宗茂公です。その実現を大いに期待するものです。

大河ドラマのロケ地の候補は

現在放送中の大河ドラマ「西郷どん」でも、武家屋敷や生垣の続く街並み、棚田、桜島を望む丘、神社など、鹿児島でロケが行われ、地元住民もエキストラで出演した場面が放送されています。

そして、そのロケ地は新たな観光スポットとなり大勢の観光客でにぎわっているとのこと。

果たして、柳川にその時代の風景としてロケ地になる場所があるのでしょうか。

担当課長は、「御花や福厳寺など候補となる」としましたが、御花、福厳寺、三柱神社も、宗茂公の在世当時には存在しません。

浮かんでくる柳川の場面

もし大河ドラマ「立花宗茂と閨千代」が実現するならば、柳川城主として大名に抜擢、領地没収、流浪のすえ再び柳川城主に返り咲き、やはり柳川が大きな舞台となります。

まず、柳川の掘割のシーンは欠かせないでしょう。

そして、家臣や領民の暮らしぶり、宗茂公や武士と領民とのふれあい、城下の武家屋敷や生垣の続く路地であったり、子供たちが遊ぶ中小水路、干拓堤防、有明海の干潟と雲仙の眺め、堀干しと泥上げ、ドンキョウキャンキャンといった祭りや伝統文化、様々な場面が浮かんできます。

更に、今は無くなってしまった二ツ河の萩や沖端川のハゼ並木があれば良い絵になります。

大河ドラマで市民の意識が変わる

自分たちの生活する日常の風景が大河ドラマのロケ地になるかもしれない、もう少し手を入れればと

いった意識が芽生え、市民の景観に対する認識が生まれ、景観づくりの活動にもつながるかもしれません。

「そういうキャンペーン、運動を行っては」と投げかけましたが、「歯止めになるかもしれない」との答弁でした。

ただ、市の景観に関係する部署は、都市計画課、生涯学習課、観光課、水路課、建設課と幅広いため、やはり市長の意識とリーダーシップ、市民の皆さんの

意識が重要だと思います。

地域コミュニティの活性化につながる

もし万が一、大河ドラマ、ロケが実現しなかったとしても、景観がよみがえり、様々なドラマ、映画のロケ誘致の候補となり、地域の財産となります。

そして、市民一人一人から地域へと機運が高まっていけば、その取り組みは地域のコミュニティ、地域連携にもつながっていくことになると思います。

平成 23 年の東日本大震災で、被災者の方々が示された規範意識、協調性、忍耐強さが、世界から注目と賞賛を集め、国民の間でも日本を見つめなおそうという風潮が生まれたことから、平成 24 年から掲載を始めた「日本再確認」の第 8 回目です。

○「日本再確認」第 8 回 「世界の建国記念日・独立記念日」

日本の建国記念日は 2 月 11 日です。

この日は、初代神武天皇が即位をされたと言われる日で、戦前は紀元節として宮中行事をはじめ、全国の学校や神社で記念行事やお祭りが行われていたようです。

では、世界各国はどうかというと、フランスやポルトガルは、それまでの王政からの解放のための革命の日です。他のヨーロッパの国々も、君主制から共和制に移行した日が独立記念日や建国記念日とされています。

中年米・アフリカ諸国は、植民地から解放された日を独立記念日としています。

東南アジア諸国も、先の大戦で日本によってヨーロッパ諸国の植民地から解放され、終戦後再度植民地化されようとされながら、戦いのすえ独立を果たした日を独立記念日としています。

アメリカも同様、イギリスの植民地からの独立宣言が行われた日を独立記念日として盛大にお祝いが行われています。

世界に目を向けてみると、イギリスのように建国記念日を持たない国もありますが、多くの国々が侵略を受けたり、植民地や王政によって虐げられていたり苦難の歴史を持っています。

そういった国々は、革命や独立戦争によって、民族が血を流して自分たちの自立と国を持つことができた喜び、その苦難を忘れないため独立記念日を制定し、お祝いが行われているようです。

私たちの日本は、先の大戦によって多大な犠牲と苦難の時を経ながらも、有史以来現在にいたるまで一度も侵略と植民地、そして革命も経験することなく世界で一番長く続いている国です。

戦後、学校では国の成り立ちについての教育は行われていません。世界の国々と自分たちの国の成り立ちを知ること、日本国民であることの幸せと誇りを持つことにつながると思います。